

11月30日「コープぎふの森・関」で森林づくり活動が開催されました。

11月30日（土）、関市迫間（ふどうの森 桜の広場）地内において、生活協同組合コープぎふの秋の活動が行われました。

これは、岐阜県が進める「企業との協働による森林づくり」の一環で、平成22年から生活協同組合コープぎふ、関市、中濃森林組合及び県との間で「生きた森林づくり協定」を締結し、行われているものです。



コープぎふ職員・組合員とその家族、関市、中濃森林組合、ふどうの森クラブ、岐阜県（恵みの森づくり推進課、中濃農林事務所）の関係者など約80人が参加しました。

参加者全員で、自生するガンピ（雁皮）の内皮をむき、紙漉きの材料としました。



ふどうの森クラブの早川さんの指導により、ガンピを使った紙漉き体験を行いました。

コナラの木片にペイントでサンタの絵付けを行うクラフト体験(丸太サンタ)も行いました。



また、ふどうの森クラブの田中さんによる「森のはたらき学習会」や「森林散策」も行われ、参加した子どもたちや大人は、森林や木の恵みを実感し、その大切さを感じているようでした。